

セリシタリトスル者ハ行政裁判所ニ出付
スルコトニ得

内甲 第一七四 號

起 案 昭和三年十二月二十日

裁可 年 月 日 施行 決定 三年十二月二十日

三年十二月二十日

内閣總理大臣 五

内閣書記官長 五

内閣書記官 五

外務大臣

五

陸軍大臣

五

文部大臣

五

逓信大臣

五

内務大臣

五

海軍大臣

五

農林大臣

五

鐵道大臣

五

大藏大臣

五

司法大臣

五

商工大臣

五

別紙内務大臣請議

治安警察法第八條第二項ニ依リ無

産政黨結社禁止ニ関スル件
右閣議ニ供ス

指令案

無産政黨結社禁止ニ関スル件請
議ノ通

昭和三年五月三日指令

内務省警秘第^陸二二七號

無産政黨結社禁止ニ関スル件

東京市麹町區内幸所一丁目五番地

黨

本年三月十五日敕定結社日本共產黨、檢舉

ヲ行ヒ更ニ翌四月十日改社労働農民黨他極

左ニ団体ノ結社禁止ヲ命シタルカ從來労働農民

黨ノ中心人物ニ何レモ強烈ニ其共產主義思想ヲ抱持

者ニシテ概不這般、私密結社日本共產黨。加盟シ
其、指導ニ基キ常ニ共產黨ノ目的トスル幾多
ノ極メテ詭激ナル運動ヲ敏活且執拗ニ敢行セルヲ
以テ治安維持上到底其存立ヲ容認スヘカラサル
モノト認ノ右、如ク其結社禁止ヲ命シタル次第ナ
ルカ其、後彼等、直ニ新黨組織準備會ナル
名稱、下、黨、再組織シ企圖シ着々準備ヲ整ヘ

遂ニ去ル十月二十四、二十五、兩日全國代表者會議ヲ
開催シテ役員決定及、綱領政策規約宣言骨子
其他諸般、運動方針ヲ議決シ愈々来ル十二月
二十二日ヨリ三日間ニ亘リ正式ニ創立大會ヲ開催ス
ル運ヒニ至レルカ、其、旧黨幹部、大部分、依然新
黨幹部トシテ臨ムトシツ、アリ且、新黨準備
會ニ終始別紙参考書ニ記載スル如ク極メテ

詭激ナル運動ニ出テ、其活動綱領、從來、行動
指令、ニエリス及極罪状ニヨリ觀察シテ旧黨ノ支
レト何等實質ニ於テ差違アルヲ見ル能ハス
全盤旧黨ノ傳統的指導精神ヲ其儘継承
セル再組織ヲ企圖スルモノト認ムルキヲ以テ此際再
結社ヲ許容スルニ於テ、過般ノ結社禁止ノ
趣旨ヲ無意義ニ終ラシムルノミナラス社會ノ安

寧一秩序ヲ紊ルニ至ルハシ、
仍ツテ本結社成立ノ時ニ於テ、別記理由ニ依リ直
ニ治安警察法第八條第二項ニ依リ再ヒ其ノ
結社ヲ禁止スルモノト認ム
右閣議ヲ請フ、

昭和三年十二月十九日

内務大臣 望月圭介

内閣總理大臣田中義一殿

新勞農党ノ結社ヲ禁止スル理由

一 舊勞働農民党幹部ノ大部分ニ依然新党
幹部トシテ臨ミツ、アリ且、新党準備會、
行動指令、概スローカシニ、三ノス及、概算紙
ニヨリテ見ルニ、其ノ活動綱領ニ、實質ニ於テ舊
黨ノソレト何等異ルトコトヲ見ル能ハサル
ヲ以テ、此際再結社ヲ許スニ於テ、過激ノ結社

禁止ノ趣旨ヲシテ各意義ニ終ラシメテ社會ノ安寧
秩序ヲ紊ルニ至ルハキコト

(二) 現在ニ於テ新黨準備會ト日本共產黨ト
聯絡關係ノ全然斷絶セラレ居ルヲ確認スル能
ハサルコト

(三) 新黨ヲ合法的政黨トシテ容認スルトキハ自
然目下合同計劃中ナル日本勞農黨無産

大衆黨等トノ合同ヲシテ早カラシメ其結果ハ左翼
ノ大團結ヲ招来シ極左分子ヲシテ跳梁セシムル
ニ至ル虞アルコト

(四) 極左運動ヲ抑圧スルコトニヨリテ一般運動ヲ
シテ自然ニ穩健化セシムルノ氣運ヲ造リ得ル
コト

(以上)

新党組織ニ至ル迄ノ經過

一労働農民党ノ組織及其ノ後ノ經過

本邦當初ノ無産政党トシテ大正十四年十二月一日
政社農民労働党ノ組織ヲ見タルカ本政社ノ創立ニ付
テハ極左共產主義者ノ介入セル事實アリシノミナラ
ズ其ノ組織ノ動機ニ不純ナルモノアリトシ即日其ノ
結社禁止ヲ命ゼラレタリ。茲ニ於テ日本農民組合ハ
比較的穩健ナル労働組合等ト共ニ共產主義系統ノ團
体ヲ排シテ再び政治結社ノ組織ヲ企圖シ翌十五年三

月五日政社労働農民党ヲ創立セリ。

本結社ハ當初極力共產主義的指導精神ノ排斥ト其ノ系統ニ屬スル團體ノ排除ヲ標榜シ容易ニ左翼ノ侵入ヲ許サザリシガ共產主義系ニ屬スル一派ハ比較的左傾セル日本農民組合ヲ通ツテ加盟運動ヲ敢テセシ結果同年十二月二十四日穩健ナル労働團體ノ脱退ヲ見党ハ完全ニ左翼共產主義系一派ノ奪取スル所トナレリ。而シテ其ノ行動タルマ極左共產主義者ノ指導ノ下ニ逐次過激化シ殊ニ各種ノ架空的別働團體ヲ組

織シ之カ名ニ依リテ或ハ議會解散運動或ハ對支非干涉運動等機會アル毎ニ日常當面ノ問題ヲ捉ヘテ大衆ノ動員ヲ企圖シ表面合理穩健ヲ裝ヒツ、矯激ナル運動ヲ決行シ甚シキハ衆議院議員選舉運動ノ際ノ如キハ選舉運動ヲ以テ一種ノ革命的動員訓練ナリトシ當選ヲ度外視シテ各種露骨ナル運動ヲ敢行セリ。一方這般檢舉セシ秘密結社日本共產党ニハ本政社ノ指導的立場ニ在ル共產主義者多数加盟シ常ニ表裡相連繫シテ全ク之ヲ共產党ノ指導下ニ置キ幾多ノ不穩行動

ヲ策謀シタルコトハ各種指令及其ノ行動ニ徴シ明白
トヤリタルヲ以テ社會ノ安寧秩序ノ保持上其ノ存在
ヲ容認シ難ク遂ニ去ル四月十日其ノ結社禁止ノ處分
ニ附シタリ。

二新党準備會ノ組織及其ノ後ノ經過

労働農民党ハ其ノ結社禁止ヲ命ゼラルルマ急遽全
國ヨリ同志ヲ召集シ政府ハ百度禁止スレバ百度組織
ニベキ主張ノ下ニ四月十二日党本部ニ於テ再結党ヲ
企テタルモ本會合ハ禁止命令ノ無視シ安寧秩序ヲ紊

ルモノト認メ集會ノ解散ヲ命ジタルヲ以テ其ノ目的
ヲ達セバシテ終レルガ旁々同党ノ有力ナル支持團體
タル日本農民組合ヨリ此際輕舉ヲ慎ムベキ旨ノ進言
モアリ加之當局取締亦嚴重ヲ極メ同党ニ不利ナルモ
ノアルヲ首取シタル爲メ結局即時結党ヲ断念シ四月
十三日一先労働農民党ノ解党式ヲ舉行セリ。

爾來新党準備會ノ名稱ノ下ニ党ノ再組織ヲ企圖シ
逐次地方支部及聯合會ノ組織ヲ計ル等着々其ノ準備
ヲ整ヘタル上去ル十月二十四五両日新党準備會全國

代表者會議ヲ開催シテ役員ノ選定及ビ綱領、政策規約
宣言骨子其他諸般ノ運動方針ヲ議シテ闘争団体トシ
テノ實體ノ充實ニ努メ茲ニ實質上ノ結党ヲ遂ゲタル
ヲ以テ愈々来ル十二月二十二日ヨリ三日間ニ亘リ正
式ニ創立大會ヲ開催スル運ニ至レリ。

新党組織準備會ハ党ノ再組織ヲ企圖シツ、一面極
メテ果敢ナル日常闘争ヲ展開シ既ニ指令ヲ發スルコ
ト前後三十七回其他達示檄ニユース聲明責抗議文等
ヲ間断ナク印刷配付シ其ノ内容タルマ或ハ十一月七

日露西亞革命紀念日ヲ期シテ労働者及農民ノ國ロシ
ヤヲ守レノスローガンノ下ニ不穩ナル運動ヲ策シ或
ハ這般檢舉セラレタル共産党員ヲ以テ祝等ノ前衛ト
リトシテ之カ積極的擁護ヲ計リ或ハ解放運動犠牲者
救援等ノ發展ヲ策スル等總テ極メテ急進的ナル理論
ニ基ク詭激ナル運動ニ出デントスルモノニ外ナラズ。

而モ其ノ行動、綱領ハ其ノ運動指令スローガン機關紙
等ヨリ見テ旧労働農民党ノソレト何等異ル所ナク旧
党ノ傳統的精神ヲ其儘繼承セルモノト認メラレ且ツ

旧党ノ幹部ハ概テ新党ノ幹部トシテ臨マントシツ、
アルヲ以テ新ニ組織セラレムトスル政治結社ハ畢竟
旧労働農民党其ノモノ、用組織ヲ企圖スルモノト謂
フヲ得ベシ。

治安警察法

第八條

治安秩序ヲ保持スル為ニ要スル場合ニ於
テ警察官ハ屋外ニ集會又ハ多衆ノ運動
若ハ群衆ヲ制限禁止若ハ解散シ又ハ屋内
ニ集會ヲ解散スルコトヲ得
結社ニシテ前項ニ該當スル者ハ内務大臣ハ之ヲ
禁止スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ違行屬カ
ニ由リ權利ヲ侵害セシキ者トスル者ハ行止或
判所ニ出訴スルコトヲ得